

第七中学校区における市立こども園設置に関する説明会 会議録

(平成 29 年 6 月 23 日 開催分)

【1. 開催日時・場所】

平成 29 年 6 月 23 日(金) 午後 1 時～午後 2 時 30 分 秋津幼稚園

【2. 出席者】

- 保護者 28 名(年長組 15 名・年少組 13 名)、その他 2 名
- 市立秋津幼稚園(井上園長・武藤教頭)
- 習志野市(小澤こども部次長・小野寺こども政策課長・松岡同課施設係長・増谷同課主査)

【3. 内容】

- 第七中学校区のこども園設置について

【4. 配布資料】

- [別紙] 第七中学校区における市立こども園の設置について

【5. 説明会概要】

1. 開会

＜小澤こども部次長＞

本日、改めて、こども園整備方針について御説明させていただき、保護者のみなさまからの御意見を頂戴し、改善できるものは改善していきたいと考えています。

2. 第七中学校区のこども園設置についての説明

＜小野寺こども政策課長＞

※ 5 月に配布した、別紙資料に基づき説明をしました。

3. 質疑応答

＜保護者＞

こども園整備について、今までどのような検討をしてきたか、そして、なぜ、このような差し迫った時期に説明会を開催するのでしょうか？

平成 27 年度から平成 29 年度の状況を見て、こども園整備の大きな決断したということと、2 年後にこども園を開園させるという、その後のスケジュールのことについては、別の話です。

大きな決断をしたのであれば、2年後ということではなく、時間に余裕をもって保護者や地域住民に説明し、納得させながら進めていくべきです。

<市>

市立幼稚園は幼児人口が増大した昭和30年代後半から昭和50年代にかけて、1つの小学校区に1つの幼稚園を整備してきました。

園児数は、昭和53年の3000人超をピークに減少し、平成29年には約500人弱という推移となっています。

習志野市は、「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画」(以下、「再編計画」という。)において、保育所と幼稚園を再編し、7つの中学校区に1つずつこども園を整備していく考え方で、これまでも整備を進めてきたもので、1つの中学校区ごとに1つのこども園を整備することは、既に確定していたものです。

これに伴って、7つの中学校区のなかで、まだ、未設置の学区として、第七中学校区をはじめ、第一中学校区、第二中学校区、第五中学校区については、こども園化の具体的な案を示し地域のみなさまから御意見を頂戴した経緯があり、施設の老朽化を優先した結果、第二中学校区において、こども園を整備することに至りました。

残りの3つの中学校区については、平成32年度以降の計画の中で位置づけることとしましたが、秋津地域・香澄地域の児童数が思った以上に減少したことや、公立幼稚園が選択されなかったことがありました。

また、平成26年度、平成27年度は秋津幼稚園への入園が10名ずつ、平成28年度、平成29年度の香澄幼稚園が7名、5名と少なく、結果的に申し上げると、2つの地域で子どもの取り合い状況があり、この状況は今後も続くものと捉えています。

子どもの出生を見ても、どちらの地域も40名程度であり、保育所需要がどんどん増えていて、このまま、秋津幼稚園と香澄幼稚園を放置してしまう訳にはいきません。

香澄幼稚園の平成29年度の入園は5名であり、そのうち4名は男の子です。

みなさんに御想像いただきたいのが、これではなかなか充実した遊びができないということです。幼児教育というのは、相手を思いやること、思い通りにならないことなど、様々なことを学んでいきます。そして、小学校に行ったときの、環境変化にも耐えられる精神的な力とか、考える力を培っていきます。

こういった、習志野市が目指す幼児教育ができない状況が続いていることから、早急に対応する必要があると判断し検討をはじめました。

幼稚園教育を考えた時に、保護者のみなさまからの御意見の中には、10名でも集団教育が成り立つとか、あまり細かいことは考えなくて良いというものもありましたが、幼児の教育というのは、家庭と幼稚園で両輪となっていくもので、家庭で出来る教育というのは、お子さんにしっかりと愛情を注いでいただき、しつけをしていただくことです。

幼稚園での教育というのは、集団教育として同じような年齢の子どもと切磋琢磨して様々な経験をさせることです。

このように拙速した状況で説明することとなったことは、反省すべきことであると考えています。

園児数が減少したことにより、全市的に保育、幼稚園教諭が不足している状況に鑑み、平成 28 年度より、両施設ともに教務主任 1 名ずつを引き上げざるを得ない状況となり、1 人少ない状況で教育を実施しています。

消耗品費・備品購入費の予算についても、児童数に応じて配分される状況であり、園児が少ない施設は運営が非常に厳しくなっています。

市としては、もちろん配慮はしていますが、配慮にも限界があります。

秋津幼稚園は、男性教諭がいるため、園庭の草取りや大きなプールでの遊びもできますが、女性教諭 4 人だけではなかなかそうはいきません。

香澄幼稚園では、女性教諭 4 人が必死に頑張っていますが、どうにもならないこともあります。これは数年後、秋津幼稚園にも起こり得ることです。

これら様々な状況を踏まえて、平成 32 年度までこの状況を続けていいのか考え、今回、提案させていただいています。このことについては、是非とも御理解いただきたいと思えます。

このまま放っておくと、秋津幼稚園も香澄幼稚園も対応に限界があります。そうであれば、こども園という新しい形で職員もたくさん配置ができ、サービスを向上し、望ましい環境と整えていきたいということで、急な御提案となった経過です。

<保護者>

香澄幼稚園を改修するこども部の案は、地域バランスや子どもの数を中心に考えていますが、秋津幼稚園が良くて通われている人がいるなかで、必ずしも地域バランスで決めるといふのはおかしいです。

地域バランスの話のなかで、登園可能な距離の話がありましたが、個々の幼稚園がどのような教育を行っているか、どのような特色を持っているか、どのような評価を受けているか確認したうえで、(どこに設置するかは)判断することで、人数や距離だけで判断する姿勢がおかしいです。

<市>

自分の子どもの通う幼稚園がなくなることは、身が裂かれるような思いであると思えます。しかし、子どもたちの将来のことを考え、何とか御理解いただきたいところで、これまで 3 つのこども園を整備し、今までも、どこかの園を閉じさせていただいて再編してきました。

秋津幼稚園も香澄幼稚園も、昭和 55 年に開園され、老朽化も同じような状況であること、施設規模や造りもほぼほぼ同じであること、両園とも小学校との併設園であること、どちらを選んでも遠くなってしまう方がどうしても出てきてしまうことなどを考えると、(どちらを選

んでも)条件は同じであります。

こういったなかで、お母さん方の気持ちは本当に分かりますが、何をもって最終的に考えたかという、全市的な地域バランスです。

西側には向山幼稚園や袖ヶ浦こども園がありますが、東側には袖ヶ浦東幼稚園がなくなり、袖ヶ浦6丁目や香澄地区の方が杉の子こども園まで通園するのは非常に厳しい状況となります。

また、袖ヶ浦こども園までの通園も、秋津地区の方より香澄地区の方が遠くなる状況であることからこども部として香澄の方を選択いたしました。

<保護者>

前回の説明会の議事録が配られました。保護者からの強い反対意見が反映されていません。修正するなり何らかの対応をしてほしいです。

議事録については、参加者の確認を得るか、参加者の確認を得ていないことを記載して、配布すべきです。

<市>

反対意見があったことは承知していますが、要点筆記で、質疑のあった内容について、一問一答形式でまとめさせていただいたものであることを御理解いただきたいと思います。

保護者の確認をせずに配布したのは申し訳なかったと考えており、配布された議事録は再度、確認させていただきます。

<保護者>

子どものこと将来のことを考えるならば、保護者に納得させる対話が必要となると思いますが、そういう意味でも、平成31年度整備ありきでの議論はやめて、ゼロベースで進めてほしいです。

教育を受ける数が多いほうが良いことは理解できますが、今までの説明は、現状の案を説得されているようにしか感じられません。

平成31年度の開園を止めて、もう少し先延ばしし、今後についてもっと話し合いをすべきです。

提案された案を一旦ストップして、今後話し合っていくことが可能なのでしょうか？

<市>

平成31年度の開園となるか、平成32年度の開園となるか、今は申し上げられませんが、なぜ、急いで進めているかという、市立幼稚園の御入園を御検討いただくのは、10月の募集要項を見て判断されていることを考慮したためです。

その募集要綱の中で、今後について、何らかの方向性をアナウンスしなければいけないと考えており、これが市の責任であると考えています。

急ぎ足であることは、承知をしていますが、何とか御理解いただきたいと思います。

幼児教育において、一定の数は必要であり、幼児教育がどうあるべきか、家庭教育と幼稚園教育の違いについて、先程の説明のとおりであり御理解をいただきたいと思います。

市としては、方向性や考えを示さなければならないので、ゼロベースではなく、今回、御提案させていただいた案で検討させていただきたいと思います。

ただし、御提案させていただくなかで、お母さん方の御意見を受け改善できるところは、改善していかなければいけないと思っています。

結果的に御提案どおりになったとしても、全てを押し付けるということではなく、配慮していく必要があると考えています。

<保護者>

幼稚園の園児数を増やすために、これまで何をしてきたのでしょうか？

こども園に統合してしまうのだから、何もしなかったのではないのでしょうか？

<市>

少子高齢化は全国的な課題となっており、幼稚園需要が減っている中で、保育需要が多くなっており、これらの有り方をどうするかについては、これまでも検討してきており、それがこども園という発想です。

また、子どもを増やすという施策について、本市では「まち・ひと・仕事・創生総合戦略」という計画をつくり、子どもを安心して産み育てる環境づくりをして、習志野市に住んでいたとき、人口を増やすことを戦略的に取り組んでいます。

今の秋津幼稚園の職員が地道に取り組み、園庭開放などを行うなかで、秋津幼稚園の良さを知ってもらおう努力をしてきました。

その結果、遠くからも通っていただけたり、少しずつ園児数が増えてきました。

園児数を増やすには、こうした習志野市の幼児教育を知ってもらうことこそが最善の方法であると考えています。

しかしながら、私立幼稚園がある、保育所を選択する方が増えている、子どもの絶対数が少ないといった状況から、職員の取組が必ずしも園児の大幅な増加に繋がらない部分もあります。

こういったことを受け、こども園を提案したところです。

こども園では幼稚園需要にも、保育所需要にも柔軟に対応することができます。

また、こどもセンターを併設することで、毎日、未就園の子が遊べる部屋を提供できること、看護師や栄養士の助言が得られることができることなど、幼稚園での取組とは違った形で利用者を増やすことができるということも、もう一つの目的としています。

<保護者>

10月の募集までに方向性を示すということでしたが、10月だと遅いと思います。

9月には私立幼稚園の募集が始まります。

とりあえず、平成31年の整備を遅らせて、来年の幼稚園の入園を考えている人たちが混乱しないようなスケジュールにしてほしいです。

<市>

現在、入園されている方に影響がないようにするため、平成31年以降の整備を予定しているなかで、果たして、1年でも先延ばしすることが、子どもたちに良いことなのかを考えました。

市としては、少しでも早くこども園化して、子どもたちにとって施設を充実させることが良いことと考えて提案しています。

10月では遅いということではありますが、最終的には8月、遅くとも9月初め頃までに方向性を定めていくこととなります。

その検討結果の中では、(今の提案が)難しいということになるかもしれませんので、何も決まっていないというのが現状です。

<保護者>

上の子ども秋津幼稚園に通っていましたが、その時から言われていたことで、親子の会話や他の児童との交流を深めるため、通園は歩いてくるよう言われてきました。

香澄幼稚園の場所まで通うこととなると、それができなくなると思います。

他の子どもの成長や他の子どものお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんまで把握できているくらい、親同士の交流が濃いですが、こども園になると、長時間児の親などとは挨拶程度で交流が難しくなるし、子どもの関わりもなかなか大変になると思います。

秋津幼稚園の自然や園庭は素晴らしいです。他にこんな素敵な幼稚園はありません。子どもたちはかくれんぼなど本当に楽しんでいる。

大きな幼稚園ではできないようなことをいろいろ考えて教育が行われています。

公立ならではの幼稚園での教育があるから、私立幼稚園の3年保育を我慢して通っており、これまで地域の方の関わりのおかげで支えられてきました。

子どものことを考えて選んできているのに、人数が少ないからということで、簡単に合併するということでは納得いきません。

3歳児保育の需要があるのだから、秋津幼稚園でも3歳児教育を行えば、通いたいという保護者もいます。公立での3歳児保育については、宙ぶらりんになっています。毎日、預かってもらえる私立幼稚園に入れてしまいたいと思うこともあります。

公立の幼稚園でも、3歳児の居場所ということも、もう少し考えてほしいです。

話しはまとまりませんが、素晴らしい幼稚園なので、是非、残してもらいたいです。

<市>

秋津幼稚園の教育が好きで、ここに通っていただけていることは、今回提出された皆様からの意見を見ても、本当によく伝わってきます。

習志野市の幼児教育として、秋津幼稚園で行っている教育については、どこの園でも同じでなくてはならず、香澄幼稚園でも同じように展開していかなくてははいけません。

どちらにしても、香澄幼稚園でも特色ある教育をしており、両方の良いところを1つにするために、職員同士で情報の交換をして1年、2年かけてそれぞれの良い部分の教育を実施できるようにしていかなければはいけません。

その結果、今の教育を継承できるようにしたいと思います。

施設が地域に支えられることは、地域とのつながりが希薄化するなかで、是非とも大事にしていきたいと思います。

ただ、地域の幼稚園や保育所の子どもたちは、やがて小学校で一緒になるなかで、こども園の良いところとして、長時間児が短時間児と同じ施設に通うことで、地域の方々に長時間児にも目を向けていただけます。

子どもが1つのつながりをつくってくれるので、是非とも保護者のみなさまも、地域とのつながりを持ってもらいたいです。

秋津地域、香澄地域では、それぞれ小学校がありますが、やがて中学校で一緒になります。(こども園にすることで、)子どもたちが両地域のつなぐ役割を担ってくれるのではないかと期待もしています。

秋津幼稚園の自然は、万が一、香澄幼稚園にこども園をつくることになっても、同じように環境をつくっていかなくてははいけません。

実は秋津幼稚園よりも香澄幼稚園の方が園庭は広いです。

ビオトープはありませんが、秋津幼稚園と同じような環境は、香澄幼稚園でもつくっていくことができる自信を持って言えます。

公立幼稚園での3歳児教育については、長年、私立幼稚園協会との共存共栄の考え方のなかで、やれないという状況が続いていました。

これについては、市としても何度も何度も検討してきましたが、結論から申し上げますと厳しかったです。

しかしながら、平成27年度から施行された制度改正(子ども・子育て支援新制度の施行)において、3歳児教育については市としても責任を持って対応することとされました。

そこで、市立こども園においては、3歳児教育を実施させていただくとして、私立幼稚園協会と話がつき、幼稚園としては受け入れられませんが、こども園であれば3歳児を受け入れることができることとなりました。

徒歩で通園することについては、小学校に通学する準備として体力をつけることを目的と

しており、この考え方は基本的に変わりませんが、こども園になって、物理的に通園が難しくなる方については、自転車や車を利用していただくしかないと考えています。

<保護者>

第七中学校区というのは、小学校区で考えると、秋津小学校、香澄小学校、谷津南小学校となるので、中心の場所は秋津幼稚園になるのではないのでしょうか？

<市>

市の中では、秋津地区と香澄地区を第七中学校区と考えています。

<保護者>

谷津南小学校の幼稚園区は、第一中学校区ですか？

第一中学校区の市立幼稚園は、奏の杜があり、入園者数が多くなっていくことが予想されますが谷津南小学校の幼稚園区の人たちも入園できると考えているのでしょうか？

<市>

向山幼稚園が谷津南小学校の対象となる幼稚園です。

第一中学校区のこども園については、人口が増えている状況であるため、谷津幼稚園も向山幼稚園も当面の間は残すこととなります。

<保護者>

(当面の間、谷津幼稚園も向山幼稚園も残すということは、)平成32年以降も、第一中学校区はこども園の整備がないということですか？

<市>

平成32年以降の再編計画の中で、第一中学校区のこども園については検討させていただきます。

<保護者>

10月の募集要項にこども園のことを載せたいということは、これに応募をしようとする方々に説明会等の案内はしたのでしょうか？

<市>

このように説明をさせていただくなかで、最終的な方針が決まりましたら、来年、御入園を御希望される保護者の皆様に対して、説明会を開催しなくてはいけないと考えています。

<保護者>

10月の段階で周知されても、私立幼稚園の入園手続きに間に合いません。

私立幼稚園の1日入園の申込や願書の受付は、8月に行われます。

来年度、秋津幼稚園に入ろうと思った方が、10月に方針を示されても、他の幼稚園を探せるのかという問題があります。

そうなった場合、そういった方々には、慌てて探してくれということなのでしょうか？

<市>

そのように私立幼稚園の御入園のこともあるので、このような説明会を開催し、ある程度の時期で方針を決めなくてはならないと考えています。

<保護者>

来年度、4歳で秋津幼稚園に入園を考えていた方が、いきなり8月に言われて、私立幼稚園の兄弟の推薦枠がない状況で、私立幼稚園への4歳からの途中入園となると、募集人数も少ないため奪い合いとなります。

私立幼稚園に入園できず、このまま話が進んでいった場合、どうしても、香澄のこども園に行けということなのでしょうか？

<市>

向山幼稚園や袖ヶ浦こども園において、4歳児の受け入れには余裕がある状況なので、公立幼稚園でよろしいという場合は、そちらも選択ができる状況にはあります。

また、秋津幼稚園は、平成30年度も4歳児の募集はするため、このまま、香澄にこども園ができるとなると、平成30年度は秋津幼稚園、平成31年度は香澄のこども園に通っていただくこととなります。

<保護者>

谷津パークタウンも、第七中学校区となるのでしょうか？

<市>

幼稚園区で考えると、向山幼稚園区となります。

<保護者>

東日本大震災の時、香澄地域のほうが秋津地域よりも被害があったと聞いていますが、市ではそういうことも理解しながら、秋津幼稚園ではなく香澄幼稚園を選択したのはどういふことでしょうか？

子どもの安全を考えたら、どう考えても香澄幼稚園を残すよりも、秋津幼稚園を残すべき

ではないでしょうか？

また、先程から、距離のことばかり説明があるが、子どもの安全を確保することはすごく大事なことだと思います。

<市>

地震の被害は、両地域ともに被害は出ていると認識しています。

ただし、建物自体は、秋津幼稚園も香澄幼稚園も大きな被害は出なかったため、秋津幼稚園も香澄幼稚園も同じ状況であると考えています。

安全性については、もちろん確保しなければならないことです。

先程、申し上げたのは、最終的な判断するなかで、市全体を見たときに距離でしか判断できなかったのが正直なところであるということです。

距離については、どちらの幼稚園にこども園をもってきても、遠くて通えない方は出てきてしまいます。

<保護者>

小学校の統合の話は関係ないとのことだが、園児数が少ないことが理由となって幼稚園がなくなるのであれば、小学校もなくなることに繋がっていきます。

今後、秋津小学校はどうなっていくのかということも、近所のなかでは話題となっています。

<市>

その点についても、しっかり御説明させていただきたいと考えてはいます。

今、申し上げているのは、こども園の整備と、幼稚園と保育所の再編をしていなくなくてはならないということです。

幼稚園需要の減少、建物の老朽化、保育需要の増加など、様々な要因があって、中学校校区ごとに7つのこども園を整備しながら施設を集約し、それ以外の市立幼稚園・保育所については私立化しようとするもので、小学校の再編等とは全く関連がないものです。

幼稚園は義務教育ではありません。

ただ、習志野市では、幼稚園教育を非常に重要と考え、1小学校区に1幼稚園という形をとってきました。

3歳児の受入の問題もあるかもしれませんが、実際は私立幼稚園を選択されたり、保育所を選択されたりと、いろんなライフスタイルに応じて、選択ができる状況にあり、こういった状況を受けて、再編を決めました。

これは、小学校の再編等とは全く別物であり、今の段階では何も検討されていないため、地域の方々に聞かれた際は、是非ともこのことについて伝えていただきたいと思います。

秋津幼稚園の施設、園庭やビオトープは、仮に香澄幼稚園に移ったとしても、有効活用すべきものであると考えています。

有効活用の仕方については、小学校の併設園であるため、真新しいものとなることはありませんが、みなさまからいろいろな御提案をいただき、今までできなかったことも含めて、進めていきたいと考えており、次の段階として、みなさまのお力をお借りしたいと考えています。

<保護者>

幼稚園の園児数が減っていて統合する必要があることは、私個人としては納得できるものではありません。

ただ、平成 31 年度に閉園するのは納得ができません。

もっと、早く説明していれば、私立幼稚園にするなど考える時間がありました。

せめて、もう 1 年考える余地を作ってほしいです。

仮に、香澄幼稚園にこども園をつくることが決まり、途中で私立幼稚園を選択したとしても、すでに、コミュニティができてしまっており、社交的な子どもや保護者は良いかもしれませんが、そうでなければ精神的な負担となります。

このようなことを考えると、平成 31 年度ではなく、せめて早くても平成 32 年度に先延ばしし、みなさんに周知する時間を設けるべきです。

今年のまつりに、香澄幼稚園の子たちも参加することとなっていますが、年少組は体力的に問題があるということで年長組のみが来る予定となっています。

仮に香澄幼稚園にこども園ができた場合、説明では自転車や車で通園すると言っていますが、車が運転できない保護者がいる、雨の日で自転車が乗れないときは歩いていくしかない、その距離を子どもと一緒に歩いていくとなるとかなり負担になります。

前回の説明会で通園バスの話を質問したとき、私立幼稚園との絡みがあるが検討すると言っていたのに、議事録にはできないとなっていました。

そうすると、秋津幼稚園の保護者は、袖ヶ浦こども園か私立幼稚園しか選択できないのでしょうか？

ハッピーバスや市バスなど、秋津地域から香澄地域に通園する手段を考えるべきで、そういう努力をしてほしいです。

こども園になることへの環境の変化で、園児には負担がかかると思いますが、限られた先生のなかで対応してもらえるのでしょうか？

香澄幼稚園でも小学校との異年齢交流はしていると思いますが、秋津幼稚園では秋津小学校や秋津保育所、袖ヶ浦こども園との交流をしています。

香澄幼稚園にこども園をつくることになった場合、香澄小学校だけの交流ではなく、秋津幼稚園で行ってきたことができるという確証があれば、保護者の考え方も変わってくると思

います。小学生にとっても、異年齢交流は、人間性を育む上で大切なことです。

<市>

どうしても、香澄幼稚園にこども園をつくるのであれば、せめて、平成 31 年度から平成 32 年度に先延ばしすることができないかということについては、本日は結論が出せないの
で持ち帰って、しっかりと検討したいと思います。

ただ、先程から申し上げているとおり、市としては、子どもたちの集団教育の環境を考
え、少しでも早くこども園の整備を進めていきたいと考えています。

保護者のみなさまにおいても、1 年遅らせた時の影響を考えてもらいたいと思います。

こども園に移行した際の子どもたちの負担をできるかぎり軽減させるためにも、職員配置
や教育の引継ぎなどは当然に配慮すべきであると考えています。

ハッピーバスについては、路線の状況を改めて確認させていただいたところ、途中までし
か行きません。

このため、路線を変更することについて、担当する部署に確認したところ、需要がどれだ
けあるかわからないなかで非常に厳しいとのことでありました。

今後、ハッピーバス以外で、何らか方法がないか検討はしてみたいと思います。

香澄幼稚園にこども園をつくった場合、距離的にどうしても通園できない方が出てきてし
まった場合で、袖ヶ浦こども園を希望される場合は優先させていただきたいと思います。

異年齢交流については、秋津幼稚園にしても、香澄幼稚園にしても、十分に交流ができ
るよう小学校の校長先生にお願いをして、交流が図れるようしていきます。

<市>

本日いただいた意見を踏まえ、こども部として、市として再度検討させていただき、また、
時間を作らせていただきたいと思います。

何度も何度もお集まりをいただいて御迷惑をおかけしますが、今後もお付き合いくださ
い。

4. 閉会

《問合せ》

習志野市こども政策課 電話番号 047-451-1151(内線:442・433)